

年 頭 所 感

森林技術総合研修所長 城土 裕



新年明けましておめでとうございます。読者の皆様にはご家族共々健やかで明るい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。さて、今年の干支は子（ねずみ）で十二支のトップであり、子孫は繁栄し、行動力に富み、財を成す年とされており、今年がそのような素晴らしい年となるように切に願う次第です。

さて、昨年一年間を振り返ってみると、年末恒例の世相を表す漢字に選ばれた「偽」に代表されるように、食品にかかわる偽装問題が一年を通じて話題となりましたし、年金問題や政府機関の不祥事など、現在の社会システムの歪みとも言える事象が多かったように思います。

一方、森林技術総合研修所の一年を振り返ってみると、林野庁をはじめ関係各位のご協力の下に計画的な研修が実施できたものと考えておりますが、中でも一昨年9月に閣議決定された森林・林業基本計画を踏まえ、「国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生」に向けて、林業機械化センターで実施した低コスト作業路研修は特筆すべきものと考えており、改めて関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

今後に向けましては、都道府県や森林管理局等からの研修ニーズを踏まえつつ、低コスト作業路研修を含め計画的な森林・林業技術者の養成になお一層努力していきたいと考えておりますので、皆様方におかれましても、引き続き当研修所の運営に対するご理解とご協力、さらには忌憚のないご意見をお願いして、年頭に当たってのご挨拶といたします。

低コスト作業路研修の実施結果について

1. はじめに

森林・林業基本計画において、「100年先を見通した森林づくり」や「国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生」などの施策方向が示されことを踏まえ、低コスト作業路作設に係る技術研修を平成19年度研修計画における重点研修として取り組んできたところですが、企画者（線形設計が中心）と技術者（土工技術が中心）に係る研修がそれぞれ終了しましたので、研修受講者からのアンケート調査結果等、実施結果の概要を紹介いたします。

2. アンケート結果

① 低コスト作業路企画者養成研修

（受講者57名で5/14-5/25・7/2-7/13・8/20-8/31に実施）

ア 全体評価

大変役立つ24名、役立つ30名、普通2名、無回答1名となっており、全体としては良好であったものと判断されます。

イ カリキュラムの内容とレベル

内容に関しては、期待した内容だった25名、期待した内容でないものもあった28名、期待した内容が少なかった1名、無回答3名となっており、またレベルに関しては、自分にあったレベルだった35名、やや難しい18名、やさしすぎた1名、無回答3名であり、一部のカリキュラムの評価が低いものの、全体としては良好であったと判断されます。

ウ 今後に向けた要望

①線形調査の時間をもっと増やすべきという意見に加え、②コスト計算の実習や設計した線形に基づいた作業路作設の実習の時間を確保して欲しい、③設計した作業路の出来上がりを見てみたい等の要望が出されています。



② 低コスト作業路技術者養成研修

(受講者 58 名で 5/28-6/8・7/23-8/3・9/3-9/14・10/15-10/26 に実施)

ア 全体評価

大変役立つ 23 名、役立つ 31 名、普通 4 名となっており、全体としては良好であったものと判断されます。

イ カリキュラムの内容とレベル

内容に関しては、期待した内容だった 31 名、期待した内容でないものもあった 22 名、期待した内容が少なかった 4 名となっており、またレベルに関しては、自分にあったレベルだった 25 名、やや難しい 27 名、やさしすぎた 6 名であり、研修生自身の技術レベルに幅があったことから、カリキュラムへの評価が分かれています。特に期待した内容が少なかったと評価した 4 名からは、高性能林業機械との組合せによる生産性向上に重点を置いた研修とすべきとの意見が出されています。

ウ 今後に向けた要望等

①指導に当たる機械化指導官の技術レベルのさらなる向上という意見に加え、②研修用の土工機械台数を増やして、見学の時間を短縮して欲しい、③研修の成果を現地に持ち帰って実践することになるが、技術を研鑽し再研修の機会を得たいとの要望が出されました。なお、今年度の研修生の技術評価は A 評価（優秀）19 名、B 評価（普通）39 名となっています。

3. 今後の対応

今後に向けては、これまでの実施結果を踏まえ、よりレベルの高い技術の付与が図られるよう、作業路作設技術をコア技術とそれ以外に分けて指導を徹底する等カリキュラムの見直し、再研修の実施、機械化指導官の技術向上に努めるほか、これまで研修で作設した作業路において、降雨時の路面排水状況を DVD に記録し、研修に活用する等を通じて、各地域における低コスト作業システムの構築に寄与していきたいと考えています。

また、林業機械化センターのホームページ (<http://www.kannet.ne.jp/fmc/>) に、各地域で低コスト作業路を作設する場合の工夫している点、問題点等について、意見交換等を図る場を立ち上げ、必要により大学、森林総研等専門家からの助言を掲示すること等を通じて、研修後のフォローアップを図っていきたいと考えています。



技術の情報発信

林業機械化センター

●第2回 根利森林鉄道まつり 10月21日(日)

昨年に引き続き「ボールドウィン実行委員会」(森林鉄道ボランティア)による協三ディーゼル機関車の修復披露イベントが秋晴れの中実施されました。来賓として星野沼田市長始め、市議会議員や地元根利住民を始め約500名が出席し、森林鉄道の歴史や地元特産品が出品され、賑わいました。



●第14回 森林利用学会学術研究発表会 11月17日(土)

つくば国際会議場において35課題が発表されました。当センターからは、森林総合研究所との合同試験・研究課題5課題を発表し、当センターに勤務し課題に取り組んできた3名の女性を代表し、藤井研修係が「女性が活躍できる林業を目指して」と題し発表しました。

●チェーンソー目立て講習会 11月22日(木)

福井県嶺南振興局からの要請により、当センターから加利屋主任機械化指導官と寺川研修係員が森林組合等の林業事業者40名に対して目立てを指導しました。故永戸太郎氏の目立て技術を継承した当センター職員が「永戸切り」と呼ばれる空中での丸太の鋸断を披露すると受講生からは驚嘆の声が上がりました。

講義概要

講師:作家 浜田久美子先生

(海外研修 平成19年11月15日)

山仕事の機会づくり(市民の森を例にして)

私は、元々心理学が専門であり、森林の専門家ではありませんが、日本の一般の人達が日本の森林・林業をどうとらえているのかということをお話することができ大変光栄です。私は森をテーマにしている作家ですが、なぜ、森をテーマにしているのか、それは、「木への恩返し」をしたいからなのです。

私は精神科のカウンセラーをしていましたが、キャリアアップのため入った大学院で心理学の勉強を続けることに違和感を持つようになった上、登校拒否になってしまいました。そのような時、東京・奥多摩のキャンプ場に連れて行かれ、キャンプ場の近くにあるごく普通の杉の木に抱きついてみたところ、不思議な充足感(エネルギー)を木から得たことを感じ、それから度々山を訪れ、数ヶ月で立ち直ることができました。元の自分に戻れたことがうれしく、木々がそれをしてくれたのだと感じ、木に何か恩返しをしたいと強く思いました。

当時、私は木のことを何も知りませんでした。そこで、木に会いに森へ通うことにしました。

そのうち、森の中でもいやな感じがする場所とリラックスできる場所とがあることに気づきました。いやな感じがする場所とは、人工林で暗く木が混み合っているところでした。

その人工林の木々は痛々しくも感じられました。どうして、人工林はこういった姿になっているのだろうと、森林に関する専門書などを読み、①輸入材が入ってきて国産材が売れない、②木材が売れないので、経営が成り立たず、新しい雇用ができない、③農山村が過疎化・高齢化するとともに、林業が3Kといわれ若い人が就業しない、の3つポイントがあることがわかりました。しかし、都市で生活している私たちにとって、これらは解決できる問題には思えない重さがありました。



(山仕事の練習)

それでも何か木にできないものかと考え続けていたある時、面白いことをいう学者と出会いました。その先生は、「山仕事には素人の人でも習いさえすれば山仕事は難しいものではなく、休日の楽しみとして自ら森の作業をすれば、森は良くなる。」と言われました。その先生が「島崎山林塾」を主宰されていた島崎洋路・元信州大学教授でした。それまで、私は、森の仕事はプロの仕事だと思っていました。「誰にでも森の仕事はできる。そして、楽しみながらできる。」という先生のお話は新鮮でした。

早々に島崎先生が講師を務めるKOA 森林塾に入塾し、植林やチェーンソーの使い方など山仕事一般について学び、人工林の間伐作業も行いました。

間伐すると森に光が入れることとなり、これが、私の考えていた「木への恩返し」となると思いました。これまで、自然に働きかける仕事をしたことがなかった私にとって、とても貴重な体験になりました。

その後私は地域材の家を建てました。私の家の前には68haの平坦な森林があり、そこは私の引っ越し後長野県伊那市が市民の森林とすることに決めました。私はそこで、市民とプロが連携しながら森に関わる仕組みづくりをしています。山仕事が初めての人たちも、立木の伐採の方法、チェーンソーの使い方、作業道の作り方などの講義を受け、作業を練習し、山仕事（植生の調査、木の名札付け、手入れなど）を楽しんでいます。

材を使う試み（地域の材を使い、参加しながら、休日の山仕事と薪づくり）

山仕事をする中で、間伐した木がどこにも行き場がないということにも気づきました。輸入木材が80%も占めており、日本の木材を使うということは、日本の森だけではなく、減少している世界の森林を守ることに役立ちます。人工林は建築材として育てられており、これらの木が使われるためには、これらの木を使った家をつくるのが大事であるとわかりました。



（浜田先生のお宅）

また、木は木材（建材）として使える部分と燃料として使える部分があることも知りました。ある事情があって、長野に家を建てることになり、地域の木材を使い、山仕事をしながら燃料として薪を使うことにしました。

この家は日本の民家を模して造っており、構造材は長野県産材、壁は漆喰で、内装や家具は国産材と全て国産材そして無垢材です。また、家の中に薪ストーブを設置し、お風呂の燃料も薪です。さらに、家が造られていく課程で、木材の使い方を学び、自分達が参加して壁に漆喰を塗りました。

このようにして造った家は住み心地が良く、いろいろなところで宣伝しています。木材の調湿性、手触り、香りなどは本に書かれていたので知識はありましたが、この家に暮らすようになり、こうした木材の良さを実感するようになり、それを発信しています。

ほとんどの日本人が山や森に行く機会がないのが現状です。人々にもっと山に近づいてもらって、木のことを知ってもらわなければ、日本の森は安泰ではないと思います。そのためには、今話題になっている「森の癒し」ももう一つの手段だと思います。日本にはたくさんの森があり、そこから得られることがたくさんあります。これを実感できる場をもっと提供していく活動に取り組んでいきたいと思っています。これも「木への恩返し」です。

（文責：森林技術総合研修所・教務指導官・秋岡陽一郎）

講師紹介

素人が山仕事を学ぶ講座「愉快的山仕事」主宰。森と木をテーマにしたライター。

著書：「森をつくる人びと」、「木の家三昧」、「森がくれる心とからだ」、「スウェーデン森と暮らす」、「森のゆくえ」

第1回日中協力研修実施

10月23日から11月3日にかけて、当研修所と中国国家林業局管理幹部学院が結んだ姉妹提携に基づき、第1回日中協力研修が実施されました。これは、両国が協力して持続可能な森林経営の推進に必要な人材育成を行うことを目的とした研修で、今回、中国から、呉秀麗国家林業局植樹造林司処長を団長とする7名の研修生が訪日しました。急速な経済発展を続けると同時に適切な森林管理を通じた環境保全が重要な課題となっている中国では、現在、これからの森林管理のあり方について検討しているとのこと。その参考とするため、日本の森林組合制度を通じた森林管理などについて視察し知識を深めたいとの中国側の要望に応え、当研修所が受入れて実施したものです。

以下にその研修の概要を紹介します。

10月24日には、辻林野庁長官を表敬訪問し、呉秀麗団長から今回の訪日の目的などについて報告しました。長官から歓迎の言葉とともに、我が国の森林・林業の現状と課題についてお話いただきました。続いて、清水海外林業協力室長から我が国の海外林業協力について、岩下経営課課長補佐から森林組合等施策の概要について講義を受け、同日午後、(独)国際協力機構、翌日、(独)森林総合研究所をそれぞれ訪問しました。

10月26日から11月1日にかけては、森林管理などの現場をみるため、山梨県富士・東部林務環境事務所、北都留森林組合、京都府日吉町森林組合、奈良県川上村森と水の源流館、三重県紀北町速水林業、ウッドピア松阪を訪問しました。各現場の皆様から森林・林業活動を通じて環境を守っていくための様々な取組について熱心な説明をいただきました。また、研修生からの多くの質問にも丁寧に説明していただき、研修生も大変満足していました。

研修の最後に、呉秀麗団長から、今回、日本で学んだことを参考にしつつ、これからの中国の森林管理のあり方について、中国の現状を踏まえながら考えていきたいとの報告がありました。これからも姉妹提携に基づき、両国が協力して適切な森林・林業に必要な人材育成に取り組んでいくことの重要性を確認し、今回の研修を終えました。



10月23日 研修所にて



辻長官に訪日研修の目的などを報告する呉団長



奈良県川上村 森と水の源流館館長 辻谷達雄氏とともに



三重県紀北町 速水林業代表 速水亨氏とともに

専攻科研修日記(10~12月)

私たち47期専攻科研修も4分の3が経過し、当初は長いように感じられた研修期間も過ぎてしまえばあっという間、起承転結で言えば「転」に当たる時期にさしかかってきました。研修の成果を集大成するべく、幅広く学んできた技術や知識を基に、各自が設定した課題の結論に向けて考察を重ねています。

<10月>

- ・樹木分類…森林総合研究所・新山植生管理研究室長から、葉の形状や特徴に基づく図鑑検索方法や標本作製、スケッチの仕方等樹木同定の手法についてご指導いただきました。
- ・各種検定…6月の簿記に続いて英検と漢検にチャレンジ。日夜積み重ねてきた努力の成果が十二分に発揮できたようで、見事、(ほぼ)全員が合格を果たすことができました。
- ・中国人研修団との交流…このたびの日中協力研修で当所を訪問された中国のみなさんと交流する機会を得、特に、バーベキューでの歓待を試みた夜の部では、英語・日本語・中国語が入り交じった会話が大いに弾み、友好の絆を深めることができました。

<11月>

- ・森林総合研究所集中講義(後期)…つくば市の森林総合研究所に出向き、今回は特に水土保持分野について最新の技術や貴重な研究成果についてご講義いただきました。
- ・登山技術(実技)…上級ガイドである杉坂先生のご指導のもと、高尾山系の景信山を走破し、読図技法と疲れの少ない歩行技術を学びました。ぜひ業務で実践したいと思います。



杉坂先生ご夫妻と景信山頂にて

- ・特別講話…林野庁・皆川次長にお越しいただき「日本の森林・林業をめぐる諸課題と政策」について講話を賜りました。政策や法律の策定プロセスを中心に、国産材安定供給体制の整備やポスト京都議定書等のホットな話題も交えたお話をいただき、取り組むべき課題とその実現に懸ける熱い情熱の必要性など大変多くのことを学ばせていただきました。
- ・課題研究中間発表会…関係機関や担当指導官のアドバイスをしつつ、ほぼ全員が直前に徹夜するなど精一杯の努力を試みたのですが、まだまだ道半ばであることを痛感しました。私たちの研究に際し、ご指導やアンケートへのご協力をいただいております都道府県や林野庁、森林管理局等並びに関係団体の皆様方に対しまして心より御礼申し上げます。



皆川次長による特別講話

<12月>

- ・森林土木技術者育成実務研修(後半)との合同研修…前半は座学、後半は群馬県赤城山中での実習により治山設計の基礎を学びました。途中立ち寄った足尾の荒廃地復興治山現場では、先人から連綿と受け継いで成し得た緑化の偉業に深い感銘を受けました。

幸い、特段体調を崩す者もなく過ごしています。いよいよこれから胸突き八丁にさしかかりますが、皆様方に対する感謝と初心を忘れず、残りの期間もチームワークと健康を大切に全力で取り組んでいきたいと思ひます。



赤城山中での治山設計実習

交通法規講習会の実施

12月7日（金）、安全運転意識の高揚や交通法規の理解等を目的として、地元の高尾警察署の担当者を講師に招き、交通法規講習会を実施しました。

当研修所では、現地実習等を伴う研修も多く、職員が公用車を運転する機会も多い実態にあり、交通事故防止も重要な取り組みの一つです。

当日は、林業機械化センター職員や専攻科生も含め多数の職員が参加し、飲酒運転防止に係る内容を主として、ビデオ上映や講話により実施されました。

ビデオ上映では、飲酒運転することによる運転操作への影響を実演した内容で、S字カーブでの走行実験では、道路外への脱輪がみられたり、ブレーキを踏む反応実験では、踏むタイミングが遅くなったり、明らかに飲酒の影響が生じていました。

また、講話では、今年6月の道路交通法の一部改正で、飲酒運転への罰則強化に加え、新たに運転者への飲酒を勧めた者や飲酒運転車両の同乗者等も処罰の対象になることや、これらに係る具体的な事例も紹介するなどわかりやすく説明していただきました。

今後、このような交通法規講習会を定期的に行い、職員挙げて交通事故防止に取り組むたいと考えております。



林業機械化センター外壁塗装工事終わる

林業機械化センターにおいて、11月から始まった事務所等始め研修施設の外壁塗装がこのほど終了しました。

林業機械化センターの建物は、いずれも国産材を使用したモデル的な木造建築物として来訪者から親しまれていますが、築10年近く経ち、外壁の傷みが著しく、塗装の実施が求められていました。今年度関係者の努力により、予算措置がなされたことから、実施の運びに至りました。

今回の外壁塗装によって建築当時の姿が甦り、快適な環境で研修を実施することができ、研修生やセンター職員も喜んでおりますが、センターへ来所の際は、甦った姿を是非ご覧いただきたいと思います。



連絡先



林野庁 森林技術総合研修所 <http://www.fti-ag.go.jp/>
〒193-8570 東京都八王子市廿里町1833番地94
TEL 042-661-7121(総務課)
042-661-3560(教務指導官室)
042-661-3565(技術研修課)
042-661-3567(経営研修課)
FAX 042-661-7314

林業機械化センター <http://www.kannet.ne.jp/fmc/>
〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1455
TEL 0278-54-8332(代表)
FAX 0278-54-8280